



2018年3月12日
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

交通事故予測のための機械学習基盤技術に関する 理化学研究所との共同研究について

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、自動車走行データを活用した交通事故予測のための機械学習基盤技術の開発に向け、理化学研究所 革新知能統合研究センター（以下「理研 AIP センター」）との共同研究を3月から開始しました。

1. 背景

損保ジャパン日本興亜は、交通事故削減を目的に展開している安全運転支援サービス『スマイリングロード』、『ポータブルスマイリングロード』および『ドライビング!』によって収集される大量の自動車走行データを活用し、ドライバーの皆さまの安全運転に資するさまざまな情報・サービスを提供していくことを目指しています。

損保ジャパン日本興亜の安全運転支援サービスでは、機械学習技術を用いて開発した独自の事故リスク評価モデルによる運転診断を提供しており、スマートフォンアプリ『ポータブルスマイリングロード』の運転診断結果に応じて自動車保険料を割り引く「テレマティクス保険」を2018年1月から販売しています。

このような商品・サービスを最新の機械学習を活用して高度化すべく、国内を代表する人工知能技術の研究開発拠点である理研 AIP センターと、自動車走行データ分析のための基盤技術開発に向けた共同研究を開始しました。

2. 共同研究の概要

共同研究では、損保ジャパン日本興亜が収集する自動車走行データを活用し、さらに高度化した交通事故予測のための機械学習基盤技術の開発を目指します。損保ジャパン日本興亜のエンジニアチームを客員研究員として理研 AIP センターに派遣し、理研 AIP センターのヒューマンコンピューションチーム（鹿島久嗣チームリーダー）と共同で、複数のテーマに関する研究開発を行います。

研究成果は、損保ジャパン日本興亜が提供する安全運転支援サービスにおいて、事故リスク評価モデルをはじめとするアルゴリズムとして順次実装します。また、共同研究を通じ、損保ジャパン日本興亜では、安全運転に資する革新的な要素技術・サービス開発のための体制強化を進めていきます。

3. 今後について

損保ジャパン日本興亜は、理研 AIP センターとの共同研究の成果をふまえて、安全運転に資する革新的な要素技術・サービスの提供を目指し、“事故の無い社会”の実現を支援していきます。

以上

【参考】理研 AIP センターの概要

理研 AIP センターは、文部科学省が推進する「人工知能／ビッグデータ／IoT／サイバーセキュリティ統合プロジェクト」事業の研究開発拠点として 2016 年 4 月に設置されました。

理研 AIP センターは、革新的な人工知能技術を開発し、科学研究の進歩や実世界応用の発展に貢献することを目指しています。また、人工知能技術の普及に伴って生じる倫理的・法的・社会的問題に関する研究や人材育成を行っています。



革新知能統合研究センター
Center for Advanced Intelligence Project

(ロゴマーク：理研 AIP センター提供)